

Character and Story

「ひとりじゃないよ」
乳がんになった方がこの活動に気づいてくれたら、
続けている意味があると思っています。



I'rie life-アイリーライフ
めぐみ
代表 伊藤 恵美さん

名古屋市出身。18年前に結婚を機に桑名市に住む。

2016年9月桑名市の集団検診を受診、10月乳がんを告知され11月右乳房全摘手術を受ける。

2018年3月乳がん患者の支え合いの会 I'rie Life-アイリーライフを設立。

「Irie (アイリー)」とは、パトワ語で幸せや楽しいを意味し、I'rie Life は、私の楽しい幸せな人生の願いを込めました。乳がんの早期発見、早期治療やセルフチェックの啓発活動と共に、メディカルヨガや伊坂ダムを一周するウォーキングなどの活動を行なっている。

現在ホルモン療養のため服薬中。夫、高3と中2の子どもたちと暮らしている。



伊藤さんについて教えてください。

私は名古屋市で生まれて、結婚して桑名へ嫁いできました。出産を機に子育てサロンに行くようになり、それがとても楽しくなり子どもを連れて出掛けるようになり充実した毎日を送っていました。

40歳のときに桑名市の集団検診を受けて、乳がん検査で「要精査」の通知を受け取りました。

息子が小学2年生と娘が幼稚園の年中でした。

このときは重大性を感じていなかったもので、まずは再検査の医者を探しました。そして再検査の結果医師から「乳がん」の告知を受けました。今でもそのときの瞬間をあんまり覚えていません。後日、主人と一緒に検査結果を聞きに行き、2回目で「乳がん」であることを受け入れました。

触れてみて硬いものを感じましたか？

しこりってピンっとこなかったです。

だいたい皆さん自分の乳房に触れて「ピーナッツみたいなのが自分の胸の中にある」と気づくのですが、私の場合は、直下型乳首の真下、真ん中だったんです。

自分の体に触っていなかったもので、自分の体にそんなしこりがあるとは全くわかりませんでした。

告知されたとき、ステージゼロ期と言われました。

乳房を切除してしまえば予後は大丈夫だと自分で調べ

てわかったので、切除することに不安はありませんでした。

しかし、手術した後に病理検査の結果、ステージⅢで、腫瘍の大きさは6センチありました。

そのとき私は「死ぬかもしれない」と思ったのです。

なかなか前向きになれなかったし、残された家族の成長をこれから見る事ができないのではないかといろいろ考え思いを巡らせました。

そして、自分が写っている写真をまず子どもたちに残したいと思い、たくさん写真を撮りました。自分がどういう治療を受けたなどを記録に残しました。抗がん剤で髪の毛が抜けた自分を収めたり、自分から丸刈りにしたんですけど、私。

I 'rie life-アイリーライフの立ち上げについて

自分は死ぬかもしれないと思ったときに、「死にたくない」と思ったんです。自分に感情が戻ってきたんです。

誰かが私みたいに告知されてどーんと落ちて不安だなど思っている人が誰か一人でもいるのだったら、私が話し相手になってあげたい。私も孤独を感じていたから、寄り添ってもらいたいと思ったのです。誰か仲間を見つけない。患者会というよりも集まれる場を作りたいと思ったのが、アイリーライフを始めたきっかけでした。

最初に始めたのは傷が癒着しないようにメディカルヨガを始めました。同時に伊坂ダムの周りを歩いています（毎週金曜）7年続いています。

同じ病気を抱えている人が、どこにいるんだろう?というのが一番の疑問で。デリケートなことなので、なかなかそういうのは話も入ってこないし聞くことも難しい。

じゃあ、自分で作ってみよう。まずは SNS を立ち上げました。

この後、自分がいなくなったらどうするんだろうか。不安もありましたが、見切り発車で始めたのです。

バスタイムトップ (使い切り入浴着)を広める活動について教えてください。

「バスタイムトップス」とは、乳がんなどの手術による傷あとをカバーする使い切り入浴着で、畿央大学とクレオスという企業との共同開発で生まれたもので、マスクと同じ不織布で作られています。

これを着て入浴することを知っていただき、理解していただくようアイリーライフは、ポスターと商品を持って温浴施設を回りました。

ある日、ガーゼ帽子を縫う会の S さんが、県外から友人が来るので桑名市内を案内したいし、温泉と一緒に連れて行ってあげたいが、その子が乳房の手術を受けているので「バスタイムトップ」をプレゼントしてあげたいのだけれど、どこで求めることができるのか、どの温泉が入浴できるのかを問い合わせさせていただいたのです。

私は S さんに商品を送り、多度町の回帰温泉を紹介しました。



S さんがそこに問い合わせたら「どうぞどうぞ、ゆっくりしてってください」と言ってくださり、当日も楽しい時間を過ごすことができたと言っていました。

このような入浴着を付けて温浴施設を利用することは、タオルで体を隠すような見慣れない光景と違和感を覚える方もいるし、使う側も勇気がいるんです。

自分の体の傷を見せてしまうだけで、自分は平気だけど、周りに胸が一つない衝撃を与えてしまうのが申し訳ないと思う方もいます。

また自分が恥ずかしいのではなく、お風呂に入りに来ている方に不快な思いをさせてしまうのが申し訳ないから、入浴着を付けてお風呂にはいりたいと思う方もいらっしゃいます。

この入浴着が周知されてお風呂に入りやすい社会になるといいなあとこの入浴着を知っていただく活動をしています。

がんを告知されてどうしようと悩んでいる人が、桑名に乳がんになった人がいるよと見つけてくれる人が一人でもいるのであれば、この活動を続けていく意味があると思うのです。

誰かに生きる希望を与えられたらなんておこがましいですが、楽しくこの先も一緒に生きていきましょう。1人じゃないよ。

〈編集後記〉インタビューより

「乳がんの告知は、本人以上にまわりの家族のショックは大きかったです。特に一番言いにくかったのが、自分の母親でした。」その時の様子は、子どもたちと母親を連れて公園へ行き、子どもたちが遊ぶ姿を見ながら、世間話のついでにお母様に伝えたそうです。

今回のインタビューで、8年経っていましたが、その時を振り返っていただきました。

映画「オズの魔法使い」(1939年)②

「オズの魔法使い」の2回目はドロシーと魔法使いオズの暗喩を探ってみます。ドロシーが望んでいることは自分の能力改善ではなく、故郷カンザスに帰りたいということ、知恵、心や勇気ではなく今、自分が置かれている現状を解決したいことです。竜巻に飛ばされ、自分が今居る場所がどこかわからない、とてもつらい状況になっています。ドロシーは自分の願いばかりを主張することなく、他の人のために助け合いや共感の行動を取っています。何かを求める他の人のために優しさを発揮しています。他の人のために行動することが現代ではとても重要になっています、まるでボランティアや社会貢献の精神と言ってもいいでしょう。

ドロシーが家に帰る、帰りたいという目標や思いは、当然のこと、誰でも学校や仕事が終わって家に帰りたい気持ちの安堵感に浸る思いを持っています。家に帰ることで自己発見や安定した基盤を求める現代人の姿と重なる気がします。

安定した基盤は、多くの人にとって家族であり家庭でしょう。

この重要な要素は何でしょうか？

家族の支えと愛情があることで、いろんなことに挑戦でき、成長し自信も生まれることでしょう。

現代社会では、家族や家庭のあり方も多様化しています、

しかし、その中心にある支え合いの精神は不変だと思います。

家に帰るという欲求は、安心感や安全、そして愛する人々とながら欲求からも考えられると思います、家は、もちろん自分の居場所や自分らしさを表現できる場所であり、それは家族との関係がその基盤や力になることだと思います。ドロシーも、オズの国で冒険をしているのですが、最終的には家に帰りたいという思いが原動力だったと思います。

現代社会で、私たちが忙しさやストレスの中で「帰る場所」を求めるのは、心の安定や安心を求める自然な気持ちだと思います。

「家に帰りたい」という思いはどんな意味でしょう。自分の居場所があると感じることは、人間にとってとても大切なこと。居場所があることは、自己肯定感が高まり、ストレスや不安を軽減できていると思っています。現代社会の中で「帰る場所」が物理的な家や家族だけでなく、コミュニティやオンライン上のつながりにも広がっている現象が面白い新しい居場所が

できつつ評価されています。

自分の居場所とはどんな意味でしょうか。

誰もが居場所が必要で、居場所があると感じることは、心の健康や幸福感にとって欠かせないものです。

物理的な場所だけでなく、心の支えになる人々やコミュニティも居場所の一部、特に現代社会では、孤独感や疎外感を感じる人が増えているからこそ、そうしたつながりがより大切になってきています。

その居場所やコミュニティって、どんなものでしょうか。

これはた役割があることで、人は自分の存在価値を感じられ、それが居場所の大きな部分でもあり職場や学校、趣味のコミュニティなどで、他の人と協力して何かを成し遂げることが、自分の居場所とすることもできるのです。「必要とされる」ことが自分の存在価値を感じさせる瞬間で、他の人のために役立つことが、自分も成長し、充実感を得られ、また、コミュニティの一員としての強いつながりを生まれます。

オズ自身は偉大で強力な魔法使いだと見せかけていましたが実際には普通の人間でした。彼は自己防衛のために幻想を作り出し、人々を守るために行動していました。ドロシーたちが彼を訪ねたとき、オズは自分の正体を明かし、彼らがすでに持っていた資質を見つかる手助けを付かしました。オズ自身も、勇気を持って自分の弱さを認め、最終的に新しいスタートを切るための道を選びました。人間の弱いところをオズの行動で感じとれるのは、人間のもろさと同時にその強さです。オズ自身は普通の人間であることを隠していましたが、それを明かすことが彼の強さでもありました。他の登場人物たちも、自分の弱さを認めることで成長していきました。

そのことは私たち自身にも当てはまります。弱さを認めることが、実は強さの一部だということを教えてくれました。現実世界でも、自分の弱さをどう受け入れていけるかが、強さと成長に繋がります。

自分の考えや感情を言葉にして誰かに聞いてもらうことは、とても大切なこと。それが心の安定や自己理解にも繋がりが、他人とより深い関係を築く手助けにもなります。□

桑名市市民活動センター 事務局リーダー 白尾豪紀